

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	茨城工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	国際創造工学科 機械・制御系 (機械コース)				18	20	7	
	国際創造工学科 機械・制御系 (制御コース)				24	26	7	
	国際創造工学科 電気・電子系			2	21	23	7	
	国際創造工学科 情報系				15	17	7	
	国際創造工学科 化学・生物・環境系				20	22	7	
	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 機械工学コース				2	12	7	
	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 電気電子工学コース			10	2	12	7	
	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 情報工学コース				2	12	7	
	専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻 応用化学コース				2	12	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=11&amp;lang=ja">https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=11&amp;lang=ja</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	茨城工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 <a href="https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/wp/wp-content/uploads/2024/04/yakuin-20240401.pdf</a>
---

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～2029年3月31日	理事長
常勤	九州大学大学院総合理工学府長・研究院長	2024年4月1日～2026年3月31日	国際交流・海外展開 情報システム
非常勤	東京大学教授	2022年4月1日～2026年3月31日	男女共同参画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	茨城工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)は以下のとおり作成されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教務委員による科目担当教員の確認・修正 12月中旬</li> <li>2. 教務委員を通じて全教員へシラバス作成依頼 12月下旬</li> <li>3. 各教員のシラバス入力 of 締切 1月中旬</li> <li>4. 一般教養部、各系における相互チェック期間 1月下旬</li> <li>5. 教務委員による記載内容チェックおよび各教員への修正依頼 2月上旬</li> </ol> <p>シラバスの公開については、シラバス担当教務主事補により最終確認の後、国立高専統一のWEBシラバスシステムに登録され、4月1日に公開される。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=11&amp;lang=ja">https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=11&amp;lang=ja</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>本科(準学士課程)については、「茨城工業高等専門学校学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程」、専攻科については、「茨城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則」を定め、適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している。</p>	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本科（準学士課程）については、「茨城工業高等専門学校学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程」、専攻科については、「茨城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則」を定め、成績評価において、客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施している。

具体的な指標の設定方法は以下のとおり。

評 価		100～90	89～80	79～70	69～60	59～0
評 語	(ア)	特優	優	良	可	不可
	(イ)	AA	A	B	C	D

クラス順位などは、上記の評価による点数の平均点で算出する。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

本科（準学士課程）における規程：

<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/rule/pdf/registrar03.pdf>

専攻科における規則：

<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/rule/pdf/registrar16.pdf>

学生便覧（p.8）：

<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/binran/pdf/binran.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

以下のとおり、卒業・修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、本科（準学士課程）については、「茨城工業高等専門学校学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程」、専攻科については、「茨城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則」に基づき、卒業・修了要件を満たした学生の卒業・修了を認定している。

-2024 年度以降の国際創造工学科入学生-

国際創造工学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

国際創造工学科では、社会人として必要な教養と人間性、社会性、技術者として必要な工学の専門知識を身に付け、国際社会で幅広い課題に意欲的に取り組むことの出来る、創造性豊かでたくましい人材を育成するため、本校に在籍して以下のような能力を身に付け、独立行政法人国立高等専門学校機構の「モデルコアカリキュラム」に基づいた教育課程で定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

卒業までに修得する能力（学習・教育目標）

- (A) 豊かな教養と高い倫理観をそなえ、自立した社会人として行動できるようになるための人間性、社会性
- (B) 工学の理念に基づいた専門工学の基礎知識
- (C) 専門工学と人文・社会科学の知識・技術を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決できる課題解決力
- (D) 国際的な視野に立って他者と協働しながら社会的課題に取り組むことのできる、姿勢と行動力およびコミュニケーション能力

-2023 年度以前の国際創造工学科入学生-

国際創造工学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）

国際創造工学科では、社会人として必要な教養と技術者として必要な工学の専門知識を身に付け、国際社会で幅広い課題に意欲的に取り組むことの出来る、創造性豊かでたくましい人材を育成するため、本校に在籍して以下のような能力を身に付け、独立行政法人国立高等専門学校機構の「モデルコアカリキュラム」に基づいた教育課程で定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

卒業までに修得する能力（学習・教育目標）

- (A) 工学の理念に基づいて、専門工学の基礎知識を修得できる能力
- (B) 専門工学と人文・社会科学の知識・技術を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決できる能力
- (C) 国際的な視野に立って他者と協働しながら社会的課題に取り組むことのできる、姿勢と行動力およびコミュニケーション能力

産業技術システムデザイン工学専攻のディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）

専門工学（機械工学、電気電子工学、情報工学及び応用化学）の深い知識及び研究遂行能力を修得すると共に、他分野を専攻する学生など多様な人々と協働して問題を発見・展開し、解決に向けて取り組むことができる実践的・創造的技術者を育成するため、本校・専攻科に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。

修了までに修得する能力（学習・教育目標）

- (A) 工学の基礎知識力
- (B) 専門分野の深い知識と研究遂行能力
- (C) 多様な人々との協働による問題解決能力およびコミュニケーション力
- (D) 社会の持続的な発展に寄与できる健全な価値観および国際理解力

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	茨城工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/zaimusyohyoR4.pdf</a>
財産目録	
事業報告書	<a href="https://kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyohoukoku.pdf">https://kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/R4jigyohoukoku.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/kansaR4.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和6年度)
公表方法: <a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/r6-keikaku.pdf</a>
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:令和6年度から令和10年度)
公表方法: <a href="https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf">https://www.kosen-k.go.jp/assets/pdf/release/225/5th-keikaku.pdf</a>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/middle/">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/middle/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/evaluation/index.html">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/evaluation/index.html</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際創造工学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/objective/index.html">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/objective/index.html</a>)</p> <p>(概要) 国際創造工学科は、社会人として必要な教養と技術者として必要な工学の専門知識を身に付け、国際社会で幅広い課題に意欲的に取り組むことの出来る、創造性豊かでたくましい人材を育成することを目的とする。 国際創造工学科は、機械・制御系、電気・電子系、情報系、化学・生物・環境系の 4 つの主専攻からなる。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html</a>)</p> <p>(概要) -2024 年度以降の国際創造工学科入学生- 国際創造工学科では、社会人として必要な教養と人間性、社会性、技術者として必要な工学の専門知識を身に付け、国際社会で幅広い課題に意欲的に取り組むことの出来る、創造性豊かでたくましい人材を育成する。そのために本校に在籍して以下のような能力を身に付け、独立行政法人国立高等専門学校機構の「モデルコアカリキュラム」に基づいた教育課程で定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 卒業までに修得する能力(学習・教育目標) (A) 豊かな教養と高い倫理観をそなえ、自立した社会人として行動できるようになるための人間性、社会性工学の理念に基づいて、専門工学の基礎知識を修得できる能力 (B) 工学の理念に基づいた専門工学の基礎知識 (C) 専門工学と人文・社会科学の知識・技術を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決できる課題解決力 (D) 国際的な視野に立って他者と協働しながら社会的課題に取り組むことのできる、姿勢と行動力およびコミュニケーション能力</p> <p>-2023 年度以前の国際創造工学科入学生- 国際創造工学科は、社会人として必要な教養と技術者として必要な工学の専門知識を身に付け、国際社会で幅広い課題に意欲的に取り組むことの出来る、創造性豊かでたくましい人材を育成するため、本校に在籍して以下のような能力を身に付け、独立行政法人国立高等専門学校機構の「モデルコアカリキュラム」に基づいた教育課程で定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。 卒業までに修得する能力(学習・教育目標) (A) 工学の理念に基づいて、専門工学の基礎知識を修得できる能力 (B) 専門工学と人文・社会科学の知識・技術を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決できる能力 (C) 国際的な視野に立って他者と協働しながら社会的課題に取り組むことのできる、姿勢と行動力およびコミュニケーション能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html</a>)</p> <p>(概要) -2024 年度以降の入学生- 本科課程では、高専機構モデルコアカリキュラムで分類された「MCC (コア) : 技術者が共通で備えるべき基礎的能力」「MCC (コア) : 技術者が備えるべき分野別の専門的能力」</p>

および「MCC（モデル）：基礎的資質・能力」「MCC（モデル）：創造性・デザイン能力」を修得するために系ごとに教育課程を編成する。

#### <機械・制御系>

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、機械・制御系は、機械・電子制御工学に関する基礎知識を修得させ、それらを用いて知能機械などの機械システムに関わる課題が解決できる技術者を育成するための教育課程を編成する。機械コースにおいては、主に機械システムを発案、設計、製作するための知識を修得するための科目群を配置する。制御コースにおいては、主に機械システムを制御するために必要な電気・電子回路技術、情報技術の知識を多く修得するための科目群を配置する。

機械・制御系は、以下の科目群を基本科目として用意する。

- 1) 自己理解、キャリアデザイン、社会のルールやマナーに関する科目：国際創造工学基礎におけるキャリアデザイン教育、特別活動など、人間性、社会性を育む科目
- 2) 社会人として必要な教養を育む科目：人間や社会の多様性、産業活動の理解のための人文・社会科学系の科目
- 3) 態度・志向性を育む科目：体育、チームワーク力等を身につけるための科目
- 4) 工学の理念と工学基礎に関する科目：国際創造工学基礎、情報リテラシー等の科目
- 5) 数学、物理、化学等の自然科学に関する科目
- 6) 主専攻：機械・制御系に関する専門科目
  - 6-1) 機械・制御系の基礎科目：製図、機械設計、力学、熱流体、工作、材料、電気回路、電磁気、電子回路、計測、制御、プログラミング、論理回路等を基盤とした基礎専門科目
  - 6-2) コース別の応用科目：  
機械コース：CAD・CAM・CAE、生産工学等の専門科目  
制御コース：制御工学、ロボット工学等の専門科目
- 7) 機械・制御系以外の分野の修得に関する科目：副専攻（電気・電子系、情報系、化学・生物・環境系、グローバル系）の基礎知識を修得するための科目。主専攻以外の副専攻を1つ修得することを必修とする。
- 8) 技術修得に関する科目：機械・制御工学実験等の実験実習科目
- 9) 汎用的能力・創造的思考力育成科目：PBL 実験や卒業研究等の、論理的思考力、分析力、創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の総合的能力を育成するための科目
- 10) 異文化・地球規模課題理解力育成科目：Global Awareness や Global PBL 等の科目
- 11) 実践的言語能力育成科目：Discussion English, Academic English, Practical English I, II等の科目

#### <電気・電子系>

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、電気・電子系は、電気電子工学の分野である電気回路、電磁気、電子回路、電子工学、電力、計測、制御、情報を基盤とした基礎専門科目の知識と、パワーエレクトロニクス、電気機器、電力システム、制御システムなどの知識を系統的に捉える応用科目を習得させ、多くの産業分野で活躍できる電気電子系技術者を育成するための教育課程を編成する。

電気・電子系は、以下の科目群を基本科目として用意する。

- 1) 自己理解、キャリアデザイン、社会のルールやマナーに関する科目：国際創造工学基礎におけるキャリアデザイン教育、特別活動など、人間性、社会性を育む科目
- 2) 社会人として必要な教養を育む科目：人間や社会の多様性、産業活動の理解のための人文・社会科学系の科目
- 3) 態度・志向性を育む科目：体育、チームワーク力等を身につけるための科目
- 4) 工学の理念と工学基礎に関する科目：国際創造工学基礎、情報リテラシー等の科目
- 5) 数学、物理、化学等の自然科学に関する科目
- 6) 主専攻：電気・電子系に関する専門科目

- 6-1) 主専攻 電気・電子系の基礎科目：電気回路、電磁気、電子回路、電子工学、電力、計測、制御、情報を基盤とした基礎専門科目
- 6-2) 電気主任技術者および第二級陸上特殊無線技士を養成する科目：電気機器、コンピュータ工学、電力システム、パワーエレクトロニクス、電子計測システム、電磁波工学、無線通信工学などの専門科目
- 7) 電気・電子系以外の分野の修得に関する科目：副専攻（機械・制御系、情報系、化学・生物・環境系、グローバル系）の基礎知識を修得するための科目。主専攻以外の副専攻を1つ修得することを必修とする。
- 8) 技術修得に関する科目：電気・電子工学実験等の実験科目
- 9) 汎用的能力・創造的思考力育成科目：PBL 実験や卒業研究等の、論理的思考力、分析力、創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の総合的能力を育成するための科目
- 10) 異文化・地球規模課題理解力育成科目：Global Awareness や Global PBL 等の科目
- 11) 実践的言語能力育成科目：Discussion English, Academic English, Practical English I, II 等の科目

#### <情報系>

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、情報系は、情報工学分野の基礎から応用までを幅広く学び、コンピュータソフトウェア・コンピュータハードウェア・情報ネットワーク・情報セキュリティなどに関する専門知識および技術を修得させ、コンピュータや情報ネットワークを利用した情報技術に関連する技術・研究分野で活躍する技術者や、情報セキュリティ技術、情報倫理に関する教育にも力を入れ、高度情報化社会に貢献できる技術者を育成するための教育課程を編成する。

情報系は、以下の科目群を基本科目として用意する。

- 1) 自己理解、キャリアデザイン、社会のルールやマナーに関する科目：国際創造工学基礎におけるキャリアデザイン教育、特別活動など、人間性、社会性を育む科目
- 2) 社会人として必要な教養を育む科目：人間や社会の多様性、産業活動の理解のための人文・社会科学系の科目
- 3) 態度・志向性を育む科目：体育、チームワーク力等を身につけるための科目
- 4) 工学の理念と工学基礎に関する科目：国際創造工学基礎、情報リテラシー等の科目
- 5) 数学、物理、化学等の自然科学に関する科目
- 6) 主専攻：情報系の基礎科目：コンピュータアーキテクチャ、情報理論、離散数学、データ構造とアルゴリズム、プログラミング、オペレーティングシステム、データベース、情報ネットワーク、情報倫理等を基盤とした基礎専門科目
- 7) 情報以外の分野の修得に関する科目：副専攻（機械・制御系、電気・電子系、化学・生物・環境系、グローバル系）の基礎知識を修得するための科目。主専攻以外の副専攻を1つ修得することを必修とする。
- 8) 技術修得に関する科目：情報工学実験等の実験科目
- 9) 汎用的能力・創造的思考力育成科目：PBL 実験や卒業研究等の、論理的思考力、分析力、創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の総合的能力を育成するための科目
- 10) 異文化・地球規模課題理解力育成科目：Global Awareness や Global PBL 等の科目
- 11) 実践的言語能力育成科目：Discussion English, Academic English, Practical English I, II 等の科目

#### <化学・生物・環境系>

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、化学・生物・環境系は、化学・生物・環境系の分野である無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、生物化学、環境化学を基盤とした基礎専門科目の知識修得に加え、物質工学実験や卒業研究などから実務能力を修得した総合化学系技術者を育成するための教育課程を編成する。

化学・生物・環境系は、以下の科目群を基本科目として用意する。

- 1) 自己理解、キャリアデザイン、社会のルールやマナーに関する科目：国際創造工学基礎におけるキャリアデザイン教育、特別活動など、人間性、社会性を育む科目
- 2) 社会人として必要な教養を育む科目：人間や社会の多様性、産業活動の理解のための人文・社会科学系の科目
- 3) 態度・志向性を育む科目：体育、チームワーク力等を身につけるための科目
- 4) 工学の理念と工学基礎に関する科目：国際創造工学基礎、情報リテラシー等の科目
- 5) 数学、物理、化学等の自然科学に関する科目
- 6) 主専攻：化学・生物・環境系の基礎科目：分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、生物化学、環境化学を基盤とした基礎専門科目
- 7) 化学・生物・環境系以外の分野の修得に関する科目：副専攻（機械・制御系、電気・電子系、情報系、グローバル系）の基礎知識を修得するための科目。主専攻以外の副専攻を1つ修得することを必修とする。
- 8) 技術修得に関する科目：物質工学実験等の実験科目
- 9) 汎用的能力・創造的思考力育成科目：PBL 実験や卒業研究等の、論理的思考力、分析力、創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の総合的能力を育成するための科目
- 10) 異文化・地球規模課題理解力育成科目：Global Awareness や Global PBL 等の科目
- 11) 実践的言語能力育成科目：Discussion English, Academic English, Practical English I, II 等の科目

これらの科目群に係る単位取得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目等によっては、レポート等の評価結果により認定する。授業科目の成績は、下記の基準により評価する。

- ・特優 (AA) 特に優れている (100～90点)
- ・優 (A) 優れている (89～80点)
- ・良 (B) 普通である (79～70点)
- ・可 (C) やや劣る (69～60点)
- ・不可 (D) 劣る (59～0点)

-2023年度以前の入学生-

本科課程では、高専機構モデルコアカリキュラムで分類された「分野共通の基礎的能力」、「専門能力」及び「分野横断的能力」の3つの能力を修得するために系ごとに教育課程を編成する。

<機械・制御系>

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、機械・制御系は、機械・電子制御工学に関する基礎知識を修得させ、それらを用いて知能機械などの機械システムに関わる課題が解決できる技術者を育成するための教育課程を編成する。機械コースにおいては、主に機械システムを発案、設計、製作するための知識を修得するための科目群を配置する。制御コースにおいては、主に機械システムを制御するために必要な電気・電子回路技術、情報技術の知識を多く修得するための科目群を配置する。

機械・制御系は、以下の科目群を基本科目として用意する。

- 1) 工学の理念と工学基礎に関する科目：国際創造工学基礎、情報リテラシー等の科目
- 2) 数学、物理、化学等の自然科学に関する科目
- 3) 主専攻：機械・制御系に関する専門科目
  - 3-1) 機械・制御系の基礎科目：製図、機械設計、力学、熱流体、工作、材料、電気回路、電磁気、電子回路、計測、制御、プログラミング、論理回路等を基盤とした基礎専門科目
  - 3-2) コース別の応用科目：
    - 機械コース：CAD・CAM・CAE、生産工学等の専門科目
    - 制御コース：システム工学、ロボット工学等の専門科目
- 4) 機械・制御系以外の分野の修得に関する科目：副専攻（電気・電子系、情報系、化学・

生物・環境系、グローバル系)の基礎知識を修得するための科目。主専攻以外の副専攻を1つ修得することを必修とする。

- 5) 技術修得に関する科目：機械・制御工学実験等の実験実習科目
- 6) 社会人として必要な教養科目：人間や社会の多様性、産業活動の理解のための人文・社会科学系の科目
- 7) 異文化・地球規模課題理解力育成科目：Global Awareness や Global PBL 等の科目
- 8) 実践的言語能力育成科目：Discussion English, Academic English, Practical English I, II 等の科目
- 9) 汎用的能力・創造的思考力育成科目：PBL 実験や卒業研究等の、論理的思考力、分析力、創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の総合的能力を育成するための科目
- 10) 態度・志向性を育む科目：体育、特別活動等の、自己管理能力、キャリアデザイン、チームワーク力等を身につけるための科目

#### <電気・電子系>

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、電気・電子系は、電気電子工学の分野である電気回路、電磁気、電子回路、電子工学、電力、計測、制御、情報を基盤とした基礎専門科目の知識と、パワーエレクトロニクス、電気機器、電力システム、制御システムなどの知識を系統的に捉える応用科目を習得させ、多くの産業分野で活躍できる電気電子系技術者を育成するための教育課程を編成する。

電気・電子系は、以下の科目群を基本科目として用意する。

- 1) 工学の理念と工学基礎に関する科目：国際創造工学基礎、情報リテラシー等の科目
- 2) 数学、物理、化学等の自然科学に関する科目
- 3) 主専攻：電気・電子系に関する専門科目
  - 3-1) 主専攻 電気・電子系の基礎科目：電気回路、電磁気、電子回路、電子工学、電力、計測、制御、情報を基盤とした基礎専門科目
  - 3-2) 電気主任技術者および第二級陸上特殊無線技士を養成する科目：電気機器、コンピュータ工学、電力システム、パワーエレクトロニクス、電子計測システム、電磁波工学、無線通信工学などの専門科目
- 4) 電気・電子系以外の分野の修得に関する科目：副専攻（機械・制御系、情報系、化学・生物・環境系、グローバル系)の基礎知識を修得するための科目。主専攻以外の副専攻を1つ修得することを必修とする。
- 5) 技術修得に関する科目：電気・電子工学実験等の実験科目
- 6) 社会人として必要な教養科目：人間や社会の多様性、産業活動の理解のための人文・社会科学系の科目
- 7) 異文化・地球規模課題理解力育成科目：Global Awareness や Global PBL 等の科目
- 8) 実践的言語能力育成科目：Discussion English, Academic English, Practical English I, II 等の科目
- 9) 汎用的能力・創造的思考力育成科目：PBL 実験や卒業研究等の、論理的思考力、分析力、創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の総合的能力を育成するための科目
- 10) 態度・志向性を育む科目：体育、特別活動等の、自己管理能力、キャリアデザイン、チームワーク力等を身につけるための科目

#### <情報系>

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、情報系は、情報工学分野の基礎から応用までを幅広く学び、コンピュータソフトウェア・コンピュータハードウェア・情報ネットワーク・情報セキュリティなどに関する専門知識および技術を修得させ、コンピュータや情報ネットワークを利用した情報技術に関連する技術・研究分野で活躍する技術者や、情報セキュリティ技術、情報倫理に関する教育にも力を入れ、高度情報化社会に貢献できる技術者を育成するための教育課程を編成する。

情報系は、以下の科目群を基本科目として用意する。

- 1) 工学の理念と工学基礎に関する科目：国際創造工学基礎、情報リテラシー等の科目
- 2) 数学、物理、化学等の自然科学に関する科目
- 3) 主専攻：情報系の基礎科目：コンピュータアーキテクチャ、情報理論、離散数学、データ構造とアルゴリズム、プログラミング、オペレーティングシステム、データベース、情報ネットワーク、情報倫理等を基盤とした基礎専門科目
- 4) 情報以外の分野の修得に関する科目：副専攻（機械・制御系、電気・電子系、化学・生物・環境系、グローバル系）の基礎知識を修得するための科目。主専攻以外の副専攻を1つ修得することを必修とする。
- 5) 技術修得に関する科目：情報工学実験等の実験科目
- 6) 社会人として必要な教養科目：人間や社会の多様性、産業活動の理解のための人文・社会科学系の科目
- 7) 異文化・地球規模課題理解力育成科目：Global Awareness や Global PBL 等の科目
- 8) 実践的言語能力育成科目：Discussion English, Academic English, Practical English I, II 等の科目
- 9) 汎用的能力・創造的思考力育成科目：PBL 実験や卒業研究等の、論理的思考力、分析力、創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の総合的能力を育成するための科目
- 10) 態度・志向性を育む科目：体育、特別活動等の、自己管理能力、キャリアデザイン、チームワーク力等を身につけるための科目

#### <化学・生物・環境系>

ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、化学・生物・環境系は、化学・生物・環境系の分野である無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、生物化学、環境化学を基盤とした基礎専門科目の知識修得に加え、物質工学実験や卒業研究などから実務能力を修得した総合化学系技術者を育成するための教育課程を編成する。

化学・生物・環境系は、以下の科目群を基本科目として用意する。

- 1) 工学の理念と工学基礎に関する科目：国際創造工学基礎、情報リテラシー等の科目
- 2) 数学、物理、化学等の自然科学に関する科目
- 3) 主専攻：化学・生物・環境系の基礎科目：分析化学、無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、生物化学、環境化学を基盤とした基礎専門科目
- 4) 化学・生物・環境系以外の分野の修得に関する科目：副専攻（機械・制御系、電気・電子系、情報系、グローバル系）の基礎知識を修得するための科目。主専攻以外の副専攻を1つ修得することを必修とする。
- 5) 技術修得に関する科目：物質工学実験等の実験科目
- 6) 社会人として必要な教養科目：人間や社会の多様性、産業活動の理解のための人文・社会科学系の科目
- 7) 異文化・地球規模課題理解力育成科目：Global Awareness や Global PBL 等の科目
- 8) 実践的言語能力育成科目：Discussion English, Academic English, Practical English I, II 等の科目
- 9) 汎用的能力・創造的思考力育成科目：PBL 実験や卒業研究等の、論理的思考力、分析力、創造力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の総合的能力を育成するための科目
- 10) 態度・志向性を育む科目：体育、特別活動等の、自己管理能力、キャリアデザイン、チームワーク力等を身につけるための科目

これらの科目群に係る単位取得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目等によっては、レポート等の評価結果により認定する。授業科目の成績は、下記の基準により評価する。

- ・特優 (AA) 特に優れている (100~90点)
- ・優 (A) 優れている (89~80点)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・良 (B) 普通である (79～70 点)</li> <li>・可 (C) やや劣る (69～60 点)</li> <li>・不可 (D) 劣る (59～0 点)</li> </ul>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：<a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html</a>)</p>
<p>(概要) 国際創造工学科では次のような人材を求めます。 また、4 年次編入学の場合は以下に準じます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成績が優秀で、理科や数学が好きな人</li> <li>2) 科学技術の分野に興味があり、新しい知識や技術を積極的に学びたいという意欲がある人</li> <li>3) 専門分野に加え、自国および他国の言語、文化、歴史、社会に関する知識を深め、豊かな教養を身につけたい人</li> <li>4) 専門知識や技術を生かし、国際的な視野にたつて社会のために役立ちたいと考えている人</li> <li>5) 社会人としての基本的なルールと国際社会を舞台に活躍できるようなコミュニケーション能力を身につけたい人</li> <li>6) 自分の考えで判断や行動ができるうえに、他者を尊重しながらチームで協働作業ができる人</li> <li>7) 自らの将来に向けて努力し、行動できる人</li> </ol>
<p>学部等名 専攻科 産業技術システムデザイン工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：<a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/objective/index.html">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/objective/index.html</a>)</p>
<p>(概要) 専門工学（機械工学、電気電子工学、情報工学及び応用化学）の深い知識及び研究遂行能力を修得すると共に、他分野を専攻する学生など多様な人々と協働して問題を発見・展開し、解決に向けて取り組むことができる実践的・創造的技術者を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html</a>)</p>
<p>(概要) 専門工学（機械工学、電気電子工学、情報工学及び応用化学）の深い知識及び研究遂行能力を修得すると共に、他分野を専攻する学生など多様な人々と協働して問題を発見・展開し、解決に向けて取り組むことができる実践的・創造的技術者を育成するため、本校・専攻科に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定する。</p> <p>修了までに修得する能力（学習・教育目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(A) 工学の基礎知識力</li> <li>(B) 専門分野の深い知識と研究遂行能力</li> <li>(C) 多様な人々との協働による問題解決能力およびコミュニケーション力</li> <li>(D) 社会の持続的な発展に寄与できる健全な価値観および国際理解力</li> </ol>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：<a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html</a>)</p>
<p>(概要) ディプロマ・ポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している。</p>

- 1) 技術者の素養である自然科学に関する科目：現代数学、現代物理学等
- 2) それぞれの専門分野の知識を深め研究遂行能力を高めるための科目：応用材料力、電磁気学特論、離散数学特論、物理化学特論Ⅰなどの専門科目、特別研究Ⅰ、Ⅱ、専攻科ゼミナールⅠ、Ⅱ等
- 3) 多様な人々と協働し問題解決に取り組む科目およびコミュニケーション力を育むための科目：特別実験、システムデザイン論、実務研修、海外実務研修等
- 4) 実社会で活躍するために必要な価値観、世界観を育むための科目：技術者倫理、国際経済、知的財産論特論、科学技術史、実務研修、海外実務研修、現代英語Ⅰ、Ⅱ等

これらの科目群に係る単位取得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目等によっては、レポート等の評価結果により認定する。授業科目の成績は、下記の基準により評価する。

- ・ 特優 (AA) 特に優れている (100～90点)
- ・ 優 (A) 優れている (89～80点)
- ・ 良 (B) 普通である (79～70点)
- ・ 可 (C) やや劣る (69～60点)
- ・ 不可 (D) 劣る (59～0点)

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/policy/index.html>)

(概要)

専攻科では、以下のような人材を求めます。

- (1) 専門分野について基礎学力を修得している人
- (2) 専門分野について、より高度な知識と研究遂行能力を身につけたい人
- (3) 専門知識を基礎にして、多様な人々と協働し、社会に役立ちたいと考えている人
- (4) 技術者としての基本的な価値観と国際的な視野をもち、それにしたがって行動できる人

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	7人	—					7人
国際創造工学科	—	16人	18人	1人	4人	0人	39人
一般教養部	—	3人	10人	2人	4人	0人	19人
専門共通教育部	—	4人	3人	0人	3人	0人	10人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
0人				34人			34人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/organization/index.html">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/organization/index.html</a>					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
国際創造工学科	200人	210人	105%	1,000人	1,026人	102.6%	人	23人
合計	200人	210人	105%	1,000人	1,026人	102.6%	人	23人
専攻科 産業 技術システム デザイン工学 専攻	20人	26人	130%	40人	50人	125%	人	0人
合計	20人	26人	130%	40人	50人	125%	人	0人
(備考) 本科（準学士課程）における編入学定員は若干名。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
国際創造工学科	170人 (100%)	99人 (58.2%)	60人 (35.3%)	11人 (6.5%)
合計	170人 (100%)	99人 (58.2%)	60人 (35.3%)	11人 (6.5%)
専攻科 産業 技術システム デザイン工学 専攻	17人 (100%)	5人 (29.4%)	12人 (70.6%)	0人 (0%)
合計	17人 (100%)	5人 (29.4%)	12人 (70.6%)	0人 (0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)は以下のとおり作成されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教務委員による科目担当教員の確認・修正 12月中旬</li> <li>2. 教務委員を通じて全教員へシラバス作成依頼 12月下旬</li> <li>3. 各教員のシラバス入力 of の締切 1月中旬</li> <li>4. 一般教養部、各系における相互チェック期間 1月下旬</li> <li>5. 教務委員による記載内容チェックおよび各教員への修正依頼 2月上旬</li> </ol> <p>シラバスの公開については、シラバス担当教務主事補により最終確認の後、国立高専統一のWEBシラバスシステムに登録され、4月1日に公開される。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 本科（準学士課程）については、「茨城工業高等専門学校学業成績の評価及び進級並びに卒業の認定に関する規程」、専攻科については、「茨城工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則」を定め、適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	国際創造工学科	167 単位	有	4,5 年生では各学期 30 単位まで
	専攻科 産業技術システムデザイン 工学専攻	62 単位	有	なし
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： <a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/binran/pdf/binran.pdf">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/binran/pdf/binran.pdf</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： <a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/access/">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/access/</a> <a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/facility/">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/facility/</a> <a href="https://www.ibaraki-ct.ac.jp/index.html">https://www.ibaraki-ct.ac.jp/index.html</a>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	国際創造工学科	234,600 円	84,600 円	59,000 円～ 184,100 円	寄宿料 8,400 円～9,600 円(寮生のみ) 寮生会費 6,000 円(寮生のみ) 学生会費 6,000 円(入会金 1,000 円/ 入学時) 教科書代 約 30,000 円 (主専攻、学 年、選択科目などにより異なる) ノート PC 代 約 60,000 円(入学時の み) 体操服装等代 約 28,500 円(入学時の み) 後援会費 23,000 円(入会金 20,000 円 /入学時)
	専攻科 産業技 術システムデ ザイン工学専 攻	234,600 円	84,600 円	38,000 円～ 58,000 円	教科書代 約 15,000 円 (コース、学 年、選択科目などにより異なる) 後援会費 23,000 円(入会金 20,000 円 /入学時)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 人物・学業ともに優れ、健康でかつ経済的理由で授業料が納められない学生が申請することにより、授業料の全額あるいは半額の免除及び、授業料を納める時期を遅らせることができる制度を設けている。 日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である本科4年次編入生及び専攻科入学生に対しては、高等教育の修学支援新制度授業料等減免新規申請者または継続申請者であることを条件として、本人からの入学金及び前期授業料等徴収猶予の申請に対する許可・不許可が決定されるまでの間、入学金及び前期授業料の徴収を猶予している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生のキャリア形成ならびに就職および進学等を支援するための組織であるキャリア支援室を令和4年4月に設置した。クラス担任および専攻科コース主任、その他関連各部署と協力しながら、各学年に応じた体系的なキャリア教育の展開、企業研究会や就職・進学ガイダンスといった各種キャリアイベントの実施、学生からの個別キャリア相談の対応、等によるキャリア支援を実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の心身の健康維持及び向上を図るとともに、健全な学生生活のための援助を行う学生健康センターを設置している。学生健康センターでは、看護師が勤務し、怪我、病気の応急処置、健康面での相談等に応じている保健室及び、本校の学生や保護者からの相談に非常勤の相談員（臨床心理士）が対応する学生相談室を運営している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ibaraki-ct.ac.jp/about/disclosure/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	G108110101546
学校名 (〇〇大学 等)	茨城工業高等専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		38人	35人	39人
内 訳	第Ⅰ区分	19人	15人	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				39人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	—	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	—	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。